


統計即ち呉・呉即ち統計…！

奥積 雅彦（総務省統計研究研修所教官）

国勢調査の実現に尽力した呉文聰の功績等については、統計図書館ミニトピックスNo.11¹で紹介したところですが、本稿では、叙勲関係文書における呉文聰の功績に係るトピックスを紹介します。

1 呉文聰の叙勲の受章履歴²

呉文聰の叙勲の受章歴は、次のとおりです。

呉文聰(1851～1918) ³	
明治 34 年（1901 年） 6 月 勲六等に叙せられ瑞宝章を授典	
明治 40 年（1907 年） 12 月 勲五等に叙せられ瑞宝章を授典	
大正 7 年（1918 年） 9 月 勲四等に叙せられ瑞宝章を授典	

2 叙勲関係文書にみる呉文聰の功績

叙勲関係文書における呉文聰の功績の要旨は次のとおりです。

- ・ 農商務省統計課長として産業統計の改善を図る
- ・ 中央及び地方に統計講習会の講師を行い統計の進歩発達に貢献
- ・ 国勢調査の必要性を訴求し大正 9 年の第一回国勢調査の実現に貢献

3 呉文聰の功績を記した叙勲関係文書⁴

呉文聰が大正 7 年（1918 年） 9 月に勲四等に叙せられるに際しての叙勲裁可書における同人の功績を記した部分は、次のとおりです。同文書において「目下病氣危篤の趣に付、前功を録し、勲四等に叙し、瑞宝章を授けられ^{たく}度」とあり、生前に手続きが進められ^{（農商務大臣からの上奏は同年 9 月 7 日付け）}、逝去の日^{（同年 19 日）}に施行されました。ちなみに、その 1 週間後、国勢調査施行令（大正 7 年勅令第 258 号）が官報に公布され、第 1 回国勢調査の実施は大正 9 年 10 月 1 日と定められました。

¹ 統計図書館ミニトピックス <https://www.stat.go.jp/library/index.html>

・ No.11 「呉文聰の国勢調査法律私案」（呉文聰のプロフィールを含む）

² 【参考資料】：国立公文書館デジタルアーカイブ、Bibliographical Database of Keio Economists

³ 【写真】 総務省統計局 HP

⁴ 国立公文書館デジタルアーカイブ「呉文聰叙勲ノ件」

【叙勲裁可書】

(筆者が原文のカタカナをひらがな表記にし、旧字体はできるだけ新字体にし、句読点、ルビ等を付しました。)

従五位勲五等吳文聰儀明治初年官府に出仕以来統計事務に従事し、明治三十一年農商務省に統計課をするや選^{えら}まれて同省属に任ぜられ之が課長と為り、同三十三年四月内閣統計局審査官を兼任し、尋^{ついで}で統計事務官に任ぜられ、大正二年六月十二日官制改正に依り廃官となり、爾来嘱託員として統計に関する事務取扱^{おんしやう}に執^{たく}掌^{しやう}（忙しく働くこと）せり。其統計課長に就任以来二十年、専心、産業統計の改善を図り従来年々発刊せる農商務省に英文対訳を付し、以て外国人の閲覽^{たよ}りに便^{たよ}にし、又常に統計教育の必要なるを唱導し、中央及び地方に統計講習会の開催を促し、且之れが講師に聘せられ講習に従事すること数十回。今^いま地方及中央に於ける統計事務の大に進歩発達を為したるは本人の^{ろうこう}功績^{こうせき}（多年にわたる経験や功績）大なりと謂ふべし。又国勢調査の必要なるを認め、言論に文章に之を論じ、遂に大正九年に於て帝国全版図に亘り国勢調査執行の計画を見るに至りたる等其功績顕著なる者に候^{そうろうところ}處^{（であります）}、目下病氣危篤の趣に付、前功を録し、勲四等に叙し、瑞宝章を授けられ^{たく}度、此段、^{いんさい}允裁^{いんさい}を仰^{たか}ぐ（決裁を頂く）。

4 おわりに

叙勲関係文書からも吳文聰の統計愛の一端をうかがい知ることができますが、彼は、叙勲関係文書で挙げた3点の功績（①産業統計の改善、②統計講習会での講義、③国勢調査の実現への尽力）にとどまらず、賃金統計の改善、欧米の統計学の研究、統計学に関する多くの著書の刊行や論文の発表、大学で統計学の講義、東京統計協会の機関誌「統計集誌」の編纂を行うなど、我が国の統計の学問と実務の発展に多大な貢献を果たしたといえます。

吳文聰の功績は、藪内武司「日本統計学史における吳文聰」に詳しく論じられています。その論文の冒頭で「わが国統計学の先駆者をたずねるとき、杉亨二と吳文聰の二人を語らずして日本統計学史を描きえない」としています。また、吳文聰氏追悼会（13回忌）における横山雅男の開会の辞⁵において「講義に著^{じんすい}訳^{じんすい}に^{じんすい}尽^{じんすい}瘁^{じんすい}（自分の労苦を顧みることなく、全力を尽くすこと）された結果は、遂に世人をして「統計即ち吳・吳即ち統計」と評判せしむるに至りました。この誉^{じんしゃく}れは人^{じんしゃく}爵^{じんしゃく}（人から与えられた爵位・官位など）より数層尊いものと存じますから官界に不遇なりしを償^いふて余りありといふべきでありませう。」とされ、宮川公男は、その著書「統計学の日本史」において吳文聰を「日本の統計理論のパイオニア」で「国勢調査創始の功労者」と称しています。これらの文献からも統計の理論と実務の分野における吳文聰に対する高い評価の一端をうかがい知ることができます。

⁵ 「統計学雑誌 第534号」（昭和5年¹⁹³⁰年12月）所収